

## Interview

田川警察署 生活安全課防犯係 合原政幸 係長

## 防犯には地域の力が不可欠

福智町の昨年の犯罪発生件数を見ると、田川警察署管内の市町村の中では、田川市、川崎町に続き3番目に高い件数となっています。昨年は2階建てで町営団地への忍び込み事件が多く発しましたが、今でも玄関や窓などの施錠忘れのために被害にあうケースも少なくないようです。

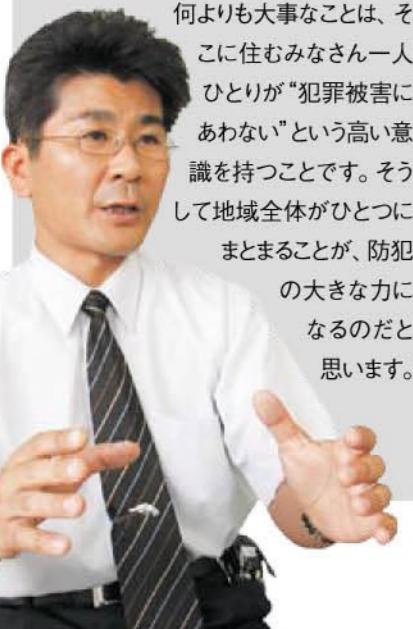
まずみなさんご理解していただきたいのは、「自分も被害者になるかもしれない」ということ。身近に起きている犯罪を自分のことに置き換えてみて、どうしたら被害にあわないかを考えてみることが大切です。少しの心がけで犯罪被害を防げる場合がたくさんありますので、「自分の身は自分で守る」という自主防犯意識を持っていただきたいと思います。

また空き巣犯人の心理としては、当然捕まりたくない「人の目」を嫌います。昨年田川警察署では、犯罪が多発した地域の警邏(巡回)活動を強化したこともあり、大幅に犯罪が減少しました。同じように福智町でも実施している「青バト」や、住民パトロールなどもかなりの犯罪抑止効果があり、実際そういう活動が活発な地域では、犯罪が激減するということが実証されています。

みなさんが安心して暮らせるよう、わたしたち警察は今後も事件の捜査、取り締まりなどに全力で取り組んでまいりますが、地域の安全を守るために何よりも大事なことは、そこに住むみなさん一人ひとりが「犯罪被害にあわない」という高い意識を持つことです。そして地域全体がひとつまとまることが、防犯の大切な力になるのだと思います。



## 「守られる」から協働で守る「守る」への意識改革



**空き巣** 空き巣犯が奪うのは現金や物だけではありません。仮に何も盗まれなかつたとしても、全く知らない誰かが自分の家に上がり込み、家中を物色されることを考えると、決して気持ちのよいものではないと思います。空き巣は、ほとんどの被害者に精神的なダメージを与えるのです。夜怖くて眠れないうちこの家に住みたくない。中にはそう訴える人も少なくないようです。

このような痛ましい事件の被害者を福智町から出さないためにも、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりの推進が求められています。

その具体的な取り組みの第一歩として、福智町での防犯・防災・緊急時などを対応するための連絡会議が、まもなく設置される予定です。実態の把握や啓発、住民の主体的な防犯活動を支援する体制づくりなど、積極的に地域との連携を図りながら取り組んでいきます。

今後は、自主防犯はもとより、防犯力を高めていくことが重要です。



平成14年に過去最高を記録した福岡県の犯罪件数。翌年から地域の防犯活動団体が増えはじめ、5年で犯罪件数は約半分に。地域の力が、確実に成果をあらわしています。

懸念ながら、侵入の手口が日々巧妙化する中、対策をしていても「空き巣犯が絶対に入れない家」はありません。一人ひとりが防犯に対する意識を高め、協力し合うことで町の安全は守られます。

## 防犯意識を習慣化する

被害にあって気付く「意識の低さ」。後悔しないために、まず次のことを今日から実行してください。

## 外出時も在宅時も必ず施錠!

無施錠は泥棒へのサービス。短時間でも外出時はもちろん、就寝時なども必ず施錠しましょう。ちなみに泥棒にとつては、ドアも窓も同じ“出入口”です。



## 家の近くに鍵を隠さない!

ポストの中や植木鉢の下はもはや一般的。隠したことになります。その他の場所でも、長時間鍵を屋外に置きっぱなしにするのは危険です。

## 留守中も留守だと思わせない!

次のような方法があります。

- ▶夜遅くなる場合は家の中の明かりを一部つけておく
- ▶留守番電話設定にしない
- ▶カーテンを閉めっぱなしにしない
- ▶洗濯物を干しっぱなしにしない
- ▶1日以上留守にする場合は新聞をとめて、郵便物をためないよう近所の人にとってもらう
- ▶家族の人数を悟らせないよう、表札に全員の名前を書かない

## 1 防犯設備を整える

泥棒は次の4つを特に嫌います。

- 1 自分の姿を見られること
- 2 侵入に時間がかかること
- 3 約7割の泥棒が、5分以内に侵入できなければあきらめといわれています。
- 4 光で照らされること
- 5 突然の大きな音

最近はこれらに対応した効果的な防犯製品がたくさんあります。

価格もさまざまなので、各家庭にあつたものを探してみてください。

**ドアの対策** ▶補助錠、防犯サムターン、ガードプレートなど

**窓類の対策** ▶補助錠、防犯ガラス、防犯フィルム、アラームなど

**周囲の対策** ▶センサーライト、防犯カメラなど



## ターゲットにならないための泥棒撃退4原則

皮肉にも、プロの泥棒ほど身の安全(セキュリティー)を重視しています。“どの家だと無事に侵入できるか”を考えながら下見している泥棒に、「この家は避けよう」と思わせるためのポイントをまとめました。

## 泥棒が特に狙うのはこんな家！ checklist

泥棒がねらいを定めるのは「泥棒しやすく逃げやすい家」、「怪しまれにくく捕まりにくい家」。そんな好都合な家を探して、泥棒は日々、次のところをチェックしています。

公園や自動販売機、コンビニエンスストアなどの近くにある家

泥棒がうろついでいても怪しまれにくい

人通りが少ない場所にある家

人目につきにくいので侵入しやすい

角地や、周辺に空き地がある家

逃げるときに多方向へ逃しやすい

工事現場の近くや線路沿いの家

ガラスを割る音などが気付かれにくい

人の入れ替わりが多い集合住宅

泥棒がうろついでいても怪しまれにくい

あなたの家にも当てはまるもの

ありませんか。ただしこれらは立地条件なので、変えることはなかなか難しいもの。泥棒のターゲットにならないためには、それぞれの家で、弱点にあった対策が必要です。

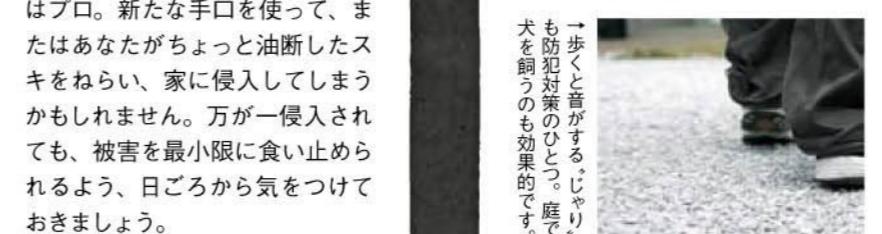
## 2 防犯環境を整える

堀が高い家には泥棒も入れないだろうと考えがちですが、外から見えにくい家は、入ってしまえば見つかりにくいので危険度④。

**point** 堀や庭木はなるべく低くして見通しを良くし、死角をつくらないように。

また、庭にゴミが落ちている、草がのびているなども泥棒にチェックされています。汚い庭は「住人がルーズで、無施錠の場所がありそう」と目をつけられたり、敷地に縛張り感が無く、なんとなく入りやすい印象を与えてしまいます。

**point** 足場になりそうな物を片付けるのはもちろん、家の周囲を常に整然と保つことが、泥棒を防ぐ大切な条件です。



どれだけ対策をしても相手はプロ。新たな手口を使って、またはあなたがちょっと油断したスキをねらい、家に侵入してしまうかもしれません。万が一侵入されても、被害を最小限に食い止められるよう、日ごろから気をつけておきましょう。